

## 第1回池田町農業振興協議会 会議要旨

日時：令和4年8月19日 午前10:00～午後0:20

場所：池田町 役場庁舎 2階大会議室

### 出席者（敬称略）

○委員 10人：宮澤敏文、北原富裕、鈴木正幸、小松俊一、矢口新平（途中出席）、片瀬善昭、櫻井康人、中山眞、立岩満、小田切隆

○アドバイザー 3人：佐藤源彦、中塚満、小林照男

○町長：甕聖章

○事務局（振興課）3人：大澤孔（課長）、丸山佳男（農政係長）、細川敬広（同係主事補）

進行：大澤課長（協議事項は会長）

### 1 開会（大澤課長）

### 2 町長あいさつ（甕町長）

本日、第1回池田町農業振興協議会ということで開催をさせていただいた。

県会議員の宮澤先生をはじめ、県関係職員、各組織代表の大勢の方が委員として本日は参加いただき、厚く御礼申し上げます。

池田町の農業における現状は大変厳しいものがあり、今に始まったことではないがここにきていよいよ現実味を帯びてきた。

水田農業に関して、池田町は約700haあるが、10年後にはその半分以上耕作者がいなくなり変わらざるを得ないというところに来ている。

その他に獣害等の課題もあり、これからの池田町の農業の振興について、持続可能な農業体制というものの構築を協議会で考えたい。

また、当面抱えてる課題のあるエリアがあり、耕作者の問題、獣害の問題そして作物選定の問題、この辺の問題をどうクリアしていくのか当面喫緊の課題として持ち上がっているエリアもある。

そんな形で諮問をさせていただきたい。

### 3 委員会開催の経緯と任務（丸山係長）

次第資料2ページ、3ページを説明

### 4 任命書交付 委員を代表し宮澤委員に町長が交付。他の委員には別途交付

### 5 自己紹介

### 6 会長指名

町長が宮澤委員を指名

### 宮澤委員

池田町の農業振興について、耕作者の高齢化や担い手不足等の大きな課題、社口原の問題を本日集まった方々が委員として、それぞれの立場で発言いただきたい。

一番は池田町の農業振興にとって前向きな方向性で、県内初の取組となるものにしていきたい。

また、会議として集まるのも回数は少なくし、今後、会議開催の前に委員へに会議資料は配るよう、事務局は配慮いただきたい。

3人のアドバイザーには様々な局面で事務局に助力願いたい。

## 7 諮問

麴町長が諮問書を、宮澤会長に手渡す（諮問書は資料集4ページ）

## 8 協議

### (1) 会長代行の決定（互選）

矢口委員を宮澤会長から提案。出席全委員同意 矢口委員に決定

### (2) 池田町の農業の状況（事務局資料説明）

#### 宮澤会長

中山間地の地域で所得450万を超えている経営体はどのくらいか。

#### 丸山係長

多くないと認識している。

#### 宮澤会長

資料では米農家を中心だが米価が下落していることで米中心の農家がどの位減り、それに対する影響や相談等に対する具体策、分析はしているか

#### 丸山係長

実際の詳しい数字は把握できていないが、所得の落ち込みに対しコロナ臨時交付金を活用し30a以上耕作している農家に10a当たり4,000円の助成を行った。

#### 宮澤会長

補てんしているのは良いが、それで生活がしていけるのか、再生産可能な農業形態が維持できるような状況に米農家があるか把握をしているのか。それとも細かい農家が多く、わからない状況なのか。

#### 丸山係長

資料P1に掲載してあるとおり、867経営体が2ha未満となっており、農業で生計を立てる感じではない。法人・個人の部分については経営の中で米が大きく占めているところがほとんどで、影響は受けている捉えている。

#### 宮澤会長

米だけで生計を立てている専業農家と、米と他の品目で生計を立てている農家の件数・経営規模がどのくらいか把握しているのか。

#### 丸山係長

池田町のほとんどの農家が転作に対応し、米と他の品目で農業をしている。しかし、大規模な面積を耕作するには米以外に他の品目もとなると大変時間がかかるため、米がメインの農家が多いと捉えている。

#### 宮澤会長

米専業農家の数は何件か。

#### 丸山係長

正確な数は分からない。確認する。

### **宮澤会長**

米専業農家は多くないとの理解でよいか、また2haで米中心だと採算が合わないため本業があつて片手間で農業をやっている人が多い状況と思うがこれから農業振興計画を作るときは現状の農家の状況が一番のポイントとなる。

### **北原委員**

池田町の農業形態について、個人の小規模の基準は2ha未満との理解でよいか。

### **丸山係長**

2ha以上と2ha未満で分類している。

### **北原委員**

農林業センサスとの兼ね合いからも水田地帯においては代表法人や大規模農家のシェアが上がってきてると言いながらも、昔からやっている農家の面積が大きいという現状がある。

作物の部分だが、センサスとの比較すると水田724haのうちで、水稻が480ha、小麦と大豆で100ha少し、それ以外の作物はほとんどセンサス上は現れてこない作物になる。

担えられる作物が水田地帯であまり出てない。

畑地については170haあるが、センサス上で出てくる面積はほとんど見える作物が出てこない現状認識でよいか。

### **丸山係長**

現状認識としてはセンサスではある程度大きい経営規模しか調査対象にならない

### **北原委員**

センサスと小規模のデータを突合して欲しい。小規模な農家の中には将来を担えるような農家もいると思う。

### **宮澤会長**

農業振興の位置付けをどう位置付けてきたのか、これから具体的にどういうふうにしようとしているのかその方向によって出す答えが変わってくる。

### **小田切委員**

池田町の歴史は水稻と蚕で、松川村と比較すると果樹や野菜がほとんど育たなかった。

今は加工ぶどうを中心とした中心とした産地形成をしており、ブドウ面積が今現在他の約30haあるが第6次総合計画での目標値として41haを目指して現在進めている状況のため、今ブドウ栽培に力を入れている。町の課題として作り手がないことが挙げられるが、産地パワーアップ事業に期待しているのが現在の町の状況。

### **宮澤会長**

農業委員会として片瀬委員の意見はどうか。

### **片瀬委員**

農業委員会として、そこまで踏み込んでない。しかし、今後の池田町の農業、特に水稻が多いため水田をどうするか、この会議で方向性を決めてもらえばいいと思う。国・県の方針で今後の農業についての考えを教えてほしい。

### **宮澤会長**

地域の農業を支えるのが農協だが、農協としての考えを立岩委員に聞きたい。

## 立岩委員

農協として、池田町に対して支援というところでは県からとか国から来た指示等に沿って対応していくことになっている。

身近なところでは新規就農者の支援、大口先農業者の支援では公庫資金、農林公庫資金等の融資関係への橋渡しや、調達等は当然やっていく。しかし、担い手をどう増やしていけばいいかは課題になっており、具体的な考えはない。

## 鈴木委員

質問4点。

- ①町の認定農業者が現在64経営体となっているが、主な経営品目は何か。
- ②資料にブドウの面積が20haとあり、小田切委員の説明だと30ha以上と聞いた、醸造用がメインと思うが、生食用もあるとすれば規模ほどの程度か。
- ③町として独自補助事業はあるのか。
- ④資料に掲載されている活性化施設が営業しているように見えないが現在の活用状況をほしい。

## 丸山係長

- ①認定農業者のほとんどが米又は米と少しの園芸の農家が多い。中には醸造用ブドウを栽培している農家もいる。
- ②生食用ブドウの作付けを行っている農家があり、商業ベースで成り立っている人もいるが面積としては大きくない。
- ③町独自の補助金としてはラジヘリ防除、園芸用の苗の種を農協で作付けすることで安定供給を図ることなどに対して補助している。
- ④レストランが営業しており、本日の昼食をレストランで用意している。

## 小松委員

質問2つ。

- ①町で獣害防止策をしなくてはならない全体の面積、必要な面積ほどの程度か。  
また、そのうちのどのくらいに獣害防止柵が設置されているのか。
- ②被害を受けている作物は何か。

## 丸山係長

- ①対策の必要な面積と、対策済の状態の正確な数字は確認しないと答えられないが
- ②主なものは夏・秋の野菜類、果樹が被害に遭っている。

## 片瀬委員

この会議全体について県の委員が多い。池田町の会議だから池田町の中に広げなければいけない。要望として、出来れば池田町の人を増やしてほしい。

## 宮澤会長

要望については町長と相談となるが、県の参加者は4人、町は欠席者含めると6人と多い。アドバイザーは、事務局に対し助力する立場での参加のためご理解いただきたい。委員に入りたい人がいるなら具体的にいつていただき、協議会から正式に要請する。

## 片瀬委員

この会議で方向性が出た後、どう進めるか決めるときに池田町の委員を増やしてもらいたい要望。

## 宮澤会長

傍聴を許可してほしいという理解でよいか。

この審議の内容を多く広めてもらいたいという趣旨だと思うため、傍聴者を許可するということの配慮でよいか。

様々な問題の中にマスコミ問題がある。誤解されて報道されるリスク等もあるが、北原委員の考えはどうか。

## 北原委員

池田町の農業をどうするかは、フルオープンでやるべきだと考えている。

できれば今回の振興協議会の諮問通りに行くのであれば、社口原の部分について、今回なり、次回の早い段階で一定の方向性を出し、個別案件としては切り離して整理できれば協議会そのものはできるだけ町民にも議論の経過をオープンするのは重要なことだと認識している。

## 中山委員

協議会の設置目的は池田町の農業全般のことなのか社口原に限ってのことなのか。

## 宮澤会長

池田町の農業振興という形で答申する、その中に社口原の問題がある。

## 中山委員

池田町の農業振興が目的ならば片瀬委員が言ったように実際の担い手農家にも参加してもらい現場の意見を聞きながらでないと町と県の意向で決まってしまうのではないか。

## 宮澤会長

ご指摘通り、第2回の時に意見を聞く場を作りたい。

今回参加いただいている委員は、それぞれの立場の代表者として池田町に関わる人を選んでいるためご理解いただきたい。一般の人たちについては、意見もちろん聞く。この協議会も4回位と考えている。

## (3) 社口原地区ほ場の経過と現状（丸山係長説明）

《説明中に矢口新平委員途中出席（11：25）》

## 中山委員

今後のために確認として社口原の計画は当初から断念している経緯がある。県、中間管理機構、町はどうしていたのか。滝沢ファームに任せきりになっていたのでないか。

## 小林アドバイザー

状況を確認するために県農政として町と連携して十分取り組んだかと言われれば必ずしもそうではなかった部分があると考えている。

今後は町との連携をさらに密にし、現地の状況、担い手の悩みを受け、県としてできることがあれば、県の組織の中で分担していきたいと思う。

## 宮澤会長

計画の状況や、国との協議の経過等の説明を。

## 小林アドバイザー

H22.8.3の営農計画の変更の以前にも、当初計画があり、定めた品目が現地にそぐわないようなものがあった。

効果の上がる作物を作らなければいけないという国の指導もあって、新たな営農計画作成を依頼した

と認識している。

#### **宮澤会長**

中山委員からの質問に対し、町の回答を。

#### **丸山係長**

過去の経過を調査してみないと回答できない。

#### **小田切委員**

本来は耕作者ありきだが、社口原について初めは借地でスタートし利用上、ほぼ全域をクラインガルテンでやることでスタートしたため耕作者ありきでの基盤整備のスタートではなかった。

関連構想についても地域住民との合意がなかなか得られなかったことで全面的に白紙になり、急きょ本来の姿である耕作者を中心とした農作物の耕作エリアとして計画を変更した。

しかし、耕作者が決まらず、試行錯誤する中で、滝沢南部営農組合になったと認識している。

#### **櫻井委員**

社口原を開拓し、既に約15年経つ、当初は県や町の指導で、作物を作ってほしいと指示があった。当時様々な作物を栽培したが、広い面積の耕作はとても無理で、方向転換して、人手もあまりいないそばに切り替えた。

獣害の被害については山際に電気柵を取り付けてもらい、一時的には効果があった。しかし、去年はイノシシ等がほ場に入りほとんどが全滅した。

そこに耕作者の高齢化等の問題、地質の問題があり、収穫がほとんどない状態。

ぶどうの話もあったが地元住民に理解してもらえなかった。過去には社口原で消毒しないとといった内容の契約書があったらしい。

今は利益に繋がることが目的ではなく、耕作地を守る形で耕作している。そば以外の作物は無理だと思う。

#### **宮澤会長**

鈴木委員は、櫻井委員の説明に対して意見はどうか。

#### **鈴木委員**

社口原で何を作っていくのかは非常に難しい、農薬の使用に関しても問題がある。獣害対策まだできるかもしれないが、誰が耕作していくことも考えなくてはならない。

#### **宮澤会長**

農薬の問題はこれから大きな問題になっていくと思われるが、中山委員から意見を。

#### **中山委員**

当初計画を断念したのは、地下水利用者の中から農薬を使用すると地下浸透し、生活用水に関わるとの声が強かったため。しかし、この前私個人で坂下地区の住民を集め、説明したところ、10年以上前のことを今は強く言わない。1件だけ日常生活用水を使用している住民が影響ないと言った。

坂下地区全体の意見が少しずつ変わってきている。坂下地区に関しては今後反対意見があった場合は私の方で全部話をする。

問題は滝の台の農薬の飛散防止。

#### **宮澤会長**

小田切委員から意見を。

### **小田切委員**

農薬問題は2つ、空中散布と地下水への浸透で汚染。

空中散布については周りが森で囲まれ、自然のグリーンベルトが形成されている。

地下水の汚染についてはサッポロヴィンヤードが耕作しているほ場が隣にあるが、地下水に影響がでた報告は受けていない。しかし、専門家の意見も聞いてみたい。

### **宮澤会長**

鈴木委員、小田切委員の説明を聞いて、北原委員の意見はどうか。

### **北原委員**

社口原の農地については平成28年から借りている。

当時機構に農地を貸し付けることによって、地権者にお金が出るという機構集積協力金という制度があり、当時はかなり単価も高い制度だったため多くの農地が集まった。

平成23年からはじまった制度でそこから5年間の栽培については、円滑化事業で行っていると伝え聞いているが、認識があっているか確認したい。

当時は10年間現状維持を前提として中間管理が借りた。

中山間直払い等の補助金制度上の課題が出てくる。引き続き営農していく状況を作らないといけない。

農薬の話については住民に話してもすぐには解決しない。時間をかけないと合意をしてもらえない。

当面来年度、来年作の作付なり、それから再来年の作付で、短い期間で農地を荒らさず、どう押していくのか。

そういうところについて関係者の中で合意をする中で、これから社口原で生産性の高い作物をどうしていくのか議論に繋げていく、繋がってく間の営農なり、維持管理体制っていうものをきちんと動いていく必要があると思う。

中間管理は農地を借りている当事者になるため一緒に考えていきたい。

### **宮澤会長**

丸山係長から今の説明に事務局として付け加えることはあるか。

### **丸山係長**

中山間地域直接支払交付金の算定対象エリアになっていない。使用貸借について、H28以前はおそらく円滑化事業だったと認識している。

### **宮澤会長**

お金は地権者へのどのくらいいっているのか。

### **丸山係長**

金額までは把握はしていない。(後ほど確認し、使用貸借のため0円)

### **中山委員**

坂下の地権者、地下水利用者、自治会が、私に一任するという形で、生産性の上がる意見を期待してきている。

### **宮澤会長**

櫻井委員から意見を。

## 櫻井委員

社口原を他へシフトする例えば観光業、観光事業を主にするのは無理かもしれないが、景観が良いため飲料水のCMの話があった。

結果的に頓挫し、実らなかったが将来の在り方の1つとして考えても良いのでは。

## 小田切委員

協議会に先駆け、社口原に隣接する3自治会に住民説明会を行った。

特に農薬使用等を中心に説明会し、農薬使用に対し、一番こだわりがあったのは滝の台だった。

他の自治会については条件不利農地としての認識が強かった。

土地利用条例の規制等もあり、また、上下水道の整備状況も含めて考えると農地以外での利用は難しいため、町としましては産地パワーアップ事業のを実証をできるエリアとして、新たな農業展開ができるような見解を持って臨んでいきたいと思う。

## 宮澤会長

矢口委員、途中参加だが意見はどうか。

## 矢口委員

来年の4月からと考えると、本当に短い。真剣に討論し、良い方向に向かうことを願う。

## 櫻井委員

住民説明会の目的は何か。

## 丸山係長

担い手の確保、ホテル開発が巷で話題となっている中、町として説明していなかった。また、社口原の農地を今後どうしていくかの協議会を立ち上げ検討していくといった内容を説明する趣旨で開催。

## 櫻井委員

なぜ滝沢は対象でなかったのか。

## 矢口委員

住民説明会の意見等のまとめはあるのか。

## 丸山係長

説明会では、営農に関するものが5件、協議会に関するものが2件、作付作物に関して6件、周辺環境に関して1件、広く地域振興について3件、土地利用の関係で7件、土壌の関係で2件、農薬の関係で4件、獣害の関係で2件の意見があった。

## 宮澤会長

協議会に関する意見は説明を求める。これからの協議会の運営について参考にしなければならない。

## 丸山係長

協議会に関する意見は2件。

- ①スケジュール感を持って進めて、住民への情報提供をこまめにお願いたい
- ②高収益作物を導入するためには設備投資が必要となるため、協議会で検討するにしても町のリーダーシップが重要ではないか。

## 宮澤会長

それらの意見に対し、町は何と回答したのか。



## 丸山係長

- ①今までの町からの説明は必ずしも十分ではなかった、今後はこまめに情報提供し、住民理解を得つつ進める。
- ②行政・経済団体・地元町民と一体となり、協議会で検討していく。

## 宮澤会長

財政問題はそれでいいのか。

厳しいから財政を絞るやり方と逆にそれなりのものについて計画をしっかりと作って、体制を大きく歯車を回していくやり方がある。絞る方は、絞って大きくなることは絶対になく、小さくなるだけ。

それに対して新しい協議をし、新しいものを作って大きくして欲しいとでは意味が全然違う。

どちらのベクトルで私ども進めればいいのか、非常にデリケートなこと。財政面の制約はないのか聞きたい。

## 小田切委員

住民説明会の対象について、住民説明会の基本的なものは今まで県と現地調査をし、様々な条件等を考えたがやはり果樹を中心としたものがないとなり、果樹となると農薬の使用が不可欠であり、農薬の影響が出るであろう隣接3地区に絞り、説明会をさせていただいた。

そういった説明の中で、誰が何をやるっていうとこまで踏み込んだ説明もしていない。

どのくらい公金をつぎ込むかという話等もその時点でまだ出していない。

## 北原委員

### 宮澤会長

細かいことはお聞きしていない。

今回、池田町の農業振興について諮問を受けている。そういう形で農業振興についてという形でよいか確認している。様々な制約があるなら制約事項を作成していただきたい。

### 小田切委員

町全体の農業振興という形で問題ない。

### 矢口委員

宮澤会長が言いたいことは収益の上がる農産物を作るために、水の問題等で金がかかる。町は金をかける気があるのかないのか、聞いておかないと委員会は進まない。

### 宮澤会長

私どもはそこまで入り込めない。

農業振興に対してどういう農業振興がいいか、一番問題は担い手を誰がやるか。

それから何を作っていくか。この担い手のところについては、どの程度の面積でどういう組織を作っていくか。このような問題点もわかってくると思う。

社口原はとても重要な位置づけ、枠を決められてしまうと何もできなくなってしまう。

次回までに3集落での説明会でどういう内容のことが話されたか、事務局から各委員に可及的速やかに提供していただきたい。

#### (4) 今後のスケジュール

○第2回協議会 9月14日(水)午後1時30分～4時30分 役場庁舎 2階大会議室

##### 櫻井委員

稲刈りが始まっているので、9月下旬にしていきたい。

##### 宮澤会長

10月末には中間答申に持っていきたいと思っているため、第2回の協議会は稲刈りが始まる前に開催したいと思っている。

また、視察を予定している。

##### 中塚アドバイザー

視察場所は新潟県上越市のグリーンファーム清里で、9月7日、午前中に代表理事の保坂さんから説明いただけるよう調整している。

##### 宮澤会長

できれば参加していただきたい。既に、私と池田町農業再生協議会の横川総合企画推進員は既に見ている。

#### 9 その他

##### 宮澤会長

事務局に対して

- ・欠席者の席も必ず用意をお願いしたい。
- ・資料は事前に送付するようお願いしたい。
- ・資料を保管するファイルを準備してほしい。

##### 大澤課長

この協議会について、委員報酬は無報酬でお願いしたい。昼に係る会議は、昼食を用意するので理解をお願いしたい。

##### 丸山係長

社口原の現地視察は、各自移動で私が案内する。

#### 10 閉会(大澤課長)